

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100176		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム・ハッピー桜		
所在地	大垣市外淵2丁目81番地		
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2192100176-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成27年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①ハード面においては、鉄筋建築による頑丈な建物、防火設備の完備、入浴設備の充実、明るく広いデッキの設置で、安心、安全な介護を提供しています。</p> <p>②医療面においては、24時間オンコールによる医療との連携をとっています。看取りへの取り組みを行っています。</p> <p>③ご利用者支援においては、お1人、お1人の気持ちに添い、お話をじっくり聞かせて頂いています。定期的に外出や外食を行い、季節を感じ取っていただいたり、地域の方達と触れ合っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して4年目の施設は管理が行き届いて清潔で明るく、新築の香が今も漂っている。1階にある地域交流室は地域住民の交流の場として関係団体や行政、サークル等に多く使用され、地域密着型施設としてその貢献度は大きい。また施設運営については、施設長をはじめ管理者、ケアマネージャー、看護師皆がそれぞれ持っているノウハウを研鑽し、質の高い介護サービスを提供している。特に、山積する課題については職員全員で協議検討し、解決に向けて創意工夫を重ねている。常に利用者が中心に居て、利用者本意のそして丁寧でゆっくりとした寄り添うケアが行われている。利用者や家族の満足が、我々の調査で確認できている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの入り口に理念が掲げられている。毎朝の申し送り時には全員で唱和をし、理念の確認をおこなっている。	職員と利用者の接している場面から、“3つの安心”という理念を感じ取ることができる。また明るく広く清潔な環境が利用者に満足を与えている。『安心な介護、安心な老後、安心な環境』である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大垣市内の中学や高校の体験学習を積極的に受け入れ、利用者との交流の場を設けている。近隣の保育園と定期的に交流を継続させている。地域へは氏神参拝や畑、散歩に出た時はお互い気さくに挨拶を交わしている。	事業所の周囲に住宅がなく地域住民との交流が難しいなか、施設内に地域交流室が開放されていて、周辺住人がいつも利用している。サークル活動、関係団体の会議、行政の地元説明会等、交流の幅が広い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修の要請があれば現地向向している。ボランティア・家族・推進会議などを通して認知症の理解や支援方法を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、意見交換会の場を設け、自由に述べて頂いている。様々な意見を受け入れ、実際の介護の場に生かしている。	運営推進会議は活発な意見交換の場になっている。自己評価、外部評価結果等も報告説明をして、更に質の高い福祉サービスの提供に力を注いでいる。メンバーから改善の方法や助言を得ている。	運営推進会議は設置が義務付けされており、自治会長や区長、民生委員等の参加がある。この事業所では区長の参加が無いが、根気良く呼びかけを行ってほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回推進会議出席の市職員や大垣社協の職員は、些細な質問にも丁寧に答えて下さるので助かっている。推進会議やケアマネ交流会の場で報告や質問を行っている。	包括支援センターケアマネ交流会、ケアプラン点検協働事業、市民病院在宅医療研修会など、市の行事に積極的に参加し協力している。また地域交流室を市が利用する時等も話し合いをし、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止策が身体拘束に値しないか、常に真剣に話合っている。定期的な研修を行うことで身体拘束行為を正しく理解し、どうしても必要な場合は身体拘束委員会を設置し、慎重に検討している。	身体拘束はしていない。検討会でも拘束や虐待についての研修会が行なわれ、常に拘束や虐待はしないことを職員同士が確認し合っている。拘束しなくてもすむケア、方法をいつも考え実行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や、外部研修により、専門的な知識を持ち、虐待を見逃さない力を養っている。身体的な虐待は言うまでもないが、言葉による虐待や介護放棄などないか常に利用者の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会があれば積極的に研修会に出ている。キーパーソンの高齢化でその必要性を痛感している。昨年は2か所で研修。今後も家族の不安に応えるため勉強を継続させる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者の不安・抱かれている潜在的な疑問など会話の中から読み取り、正直に丁寧に説明している。いつでも疑問に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やその家族から直接聞いた言葉を職員が投函している。投函箱は入口に設置しており、外部の意見を受け入れている。お客様声情報として綴ったファイルが入口に揚げてあり誰でも閲覧できる。	家族の面会が毎日のようにあり、その時をとらえて利用者や家族に意見を聞き取るように心がけている。中でも、ここ独自のお客様の声情報を綴ったファイルが玄関に置いてあり、誰でも読むことができる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス時には上席者が出席をし、職員の声を聞いている。また、お客様声情報は利用者やその関係者だけでなく、職員の声も反映させている。	いつでも、何でも職員同士が話せる職場になっている。そして話の中心は利用者や家族のことであり、『安心な介護』を目指し、安心の環境づくりに参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士の勉強会を実施している。働きやすい環境として希望休の設置、業務に差し障らない勤務変更、残業を作らない業務の改善、結婚、妊娠、出産、子育て支援等のためのシフトの工夫をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修において研修費の全額、一部負担金制度がある。研修を受けた職員は施設内研修の講師となり他の職員の研修にあたる。また日々の介護の中で個別指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や介護施設協議会居宅支援事業等の会員となっており様々な研修や交流会の案内が送付される。他事業所とは情報交換を行っており良い刺激を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	落ち着ける静かな環境を作り、家族から得た情報をもとにゆっくりと丁寧な声掛けをさせて頂く。しっかりと目を合わせて、顔きながら話を聞かせていただき、ホーム生活に慣れて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一方的に話しかけないようゆっくりと目を合わせて話を伺う。否定と指導的な発言は絶対にしない。同調を意識し、安心して話して頂ける雰囲気を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に家族状況や好き嫌い表を渡している。本人や家族の話の中から、うまく言葉に出せない本音や要望を見つけていく。アセスメントシートを活動し満足がいく支援を見つけだしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族として、優しい気持ちで接し、軽い労働を職員と共に行っている。行事も利用者と共に企画をし、楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎週面会に見える息子夫婦。面会時喫茶店や食事に連れて行って下さる息子夫婦等が見える。その都度利用者の様子を報告させて頂き、家族との絆が続くよう支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を書いて頂いたり、仕事仲間が再度面会に来て頂けるよう、お願いをしている。親類の慶事等には積極的に支援をしている。	利用者を訪ねてくる友人や親戚を大切にしている。隣接するディサービスと一緒に作業やレクリエーションを行い、その中で馴染みの関係が出来るような配慮もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	9人家族という意識が利用者さんにあり、軽作業(洗濯物たたみ等)皆様に均等になるよう配慮をしている。利用者さん同士で衣類を整え合う光景が見られ、職員は手を出さず見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたご家族にも行事の案内を出したり、金銭問題で転出された方の相談も受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ボランティアレクに参加したくない方を強制していない。日中おやつを希望される方には、居室へお連れし、気兼ねなく食べて頂いている。事務所へ訴えに来る利用者の声もじっくりと聞いている。	職員が自然な形で利用者に寄り添っている。日常の会話の中で、本人が、何をしたいのか、どういう暮らしをしたいか等、職員は常に推し量っている。そこに利用者や家族の満足感が培われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から聞いた情報をシートに記入し、同調、傾聴をしながら利用者の把握に努めている。必要であれば材料を購入し、以前の趣味に取り組んで頂くことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居心地が良い場所、ウマが合う人間関係、軽労働の分配、趣味など一人一人に合わせ、穏やかにすごせる工夫をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点が出た時には、家族に現状を伝え意向を伺う。利用者の問題点その背景にあるもの、それらのシートを活用し、本人、家族の意向に沿ったケアを検討している。主治医に問題点を伝え医師の見解も踏まえている。	利用者の思いを理解し計画に反映するため、担当者が寄り添ってモニタリングをし、ケア会議で報告している。これにより利用者にとって必要なことが明確になり、日々の実践に生かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のカンファレンス時に話し合っ支援の統一を図っている。周辺症状の激しい利用者には24時間シートを活用し、スタッフ全員が記入をすることによって問題点解決の糸口を探っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単調な支援ではなく、それぞれのニーズに合わせ毎日申し送り時に確認を行いながら柔軟に対応している。家族受診が困難であれば病院までの送迎や付添を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに大型ショッピングセンターがあり、そこでの買い物や外食を楽しみにされている。定期的に計画を立てて外出をしている。時には個人的にお連れすることもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医はあるが、主治医への強要はしていない。家族、本人の希望を優先している。歩行が困難になり、家族での受診が困難になった場合は、送迎サービスを行い、安全に受診して頂いている。	本人家族が自由に主治医を選んでいるが、終末期医療の連携がとれている提携医を希望する人も多い。診療科の違う医師同士の連絡もスムーズで、状況に応じた適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックをし、利用者の体調管理を行っている。体調不良など見られた場合、医療連携ノートに記録。看護師は常にノートチェックをしており、受診指示や処置方法を指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、常に家族と連絡を取りあっている。病院には本人の詳しい情報提供を行い、出来る限りの協力を行っている。時にはカンファレンスの要請をし、早期退院、退院後の適切な療養の指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回面接時に意向を聞いている。定期的終末における支援の在り方を個々に尋ね、意向に沿った支援の準備をしている。延命か看取りか迷ってる家族が多い。24時間オンコール体制を取っており、急変時の対応をしてきた。医療関係もしっかり連携出来ている。	昨年度、二人の方の看取りを行っている。ホームとして初めての経験であったが、主治医、家族と話しあい、それぞれの協力を得ながら最期まで穏やかに過ごせる環境を整えることができた。家族にも満足して頂け、今後も積極的に進めていきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練時に救急対応の講習を受けている。実際AEDを使用したケースがある。また、日頃より看護師に利用者の急変時の対応について質問を重ねており、実践力は万全ではないが身につけつつある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4年前開設時に医院、近隣の保育園、ケアハウスと当事業所5施設で火災協定が締結された。あらゆる事態を想定し、年2回消防署の指導を受けながら訓練を行っている。食品備蓄をしている。	火災のみならず水害や地震災害に備えた研修に参加しており、日頃からホームの防災意識を高めている。1階に地域交流室があり、災害時には地域の避難場所として利用してもらえるよう、備蓄も多めにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、全ての利用者を〇〇さんと呼んでいる。職員の中で不適切な発言があった場合、その場で注意をしている。日頃から褒め言葉が自然に出るような、言葉かけを意識している。	一人ひとりの尊厳に配慮した対応や言葉かけを大事にしており、利用者の穏やかな表情や心の安定につながっている。特に排泄支援では利用者の気持ちを推し量り、さりげない対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	笑顔で利用者が自分の思いを伝えることが出来るよう顔きや同調をしながら本人の気持ちを察し、自己決定ができるようアプローチをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を尊重し、無理にレクに誘ったり、食事がすぐだからと言って趣味を取り上げたりはしていない。食事をゆっくり摂りたい方には時間をかけて摂って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日同じ服装にならないように、起床時好みを尋ねながら選んで頂いている。麻痺などで上手く整髪ができない方には鏡の前でブラッシングさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんで配膳をして頂いている。定期的に職員も含めた昼食、おやつ作りをしている。食事作りでは、調理もされ、生き生きされている。かたづけは皆で行っている。	食事は専門業者から取り寄せているが、味、見た目、栄養面も充実しており利用者のあいだで好評である。ホットプレートを使ったおやつ作りや外食も積極的に取り入れ、暮らしの中の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄や体重をチェックし、栄養状態には配慮をしている。水分確保の為、起床時、10時、3時、または希望時にお好みの飲み物、お茶をお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声掛けをし、自立困難な方には介助をしている。自立の方も時々チェックをし、ブラッシングを手伝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間おむつ対応の方も昼間は紙パンツを使用し、トイレで排泄をしている。排泄チェックシートを参考に、定期的にトイレへ声掛けを行い、パット使用を減らす工夫をしている。	排泄リズムを把握して声かけし、たとえ拒否があってもまずは気持ちを受入れ無理強いはしていない。失禁の度に着替え、気持ちよく過ごす経験を増やすことによって、オムツに頼らない生活ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	脚が弱り立位が難しい方もトイレで立って頂いて腸を刺激し排便を促している。朝食のメニューの他にヨーグルトを出したり、起床時に冷たい水を飲んで頂くなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	長湯が好みだったり、入浴が苦手の方のニーズに合わせている。1対1での対応により良きコミュニケーションの場になっている。身体に負担のかからないよう、特浴対応もしており、入浴拒否の方は、みえない	入居当初、入浴拒否があった時には、浴室への無理な誘導は行っていない。まず足浴、清拭でスタッフと信頼関係を築き、シャワー浴、浴槽でゆったりする心地良さを味わってもらい、その後拒否はみられなくなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時の更衣介助時、居室でゆったりと会話を交わしながら休んで頂く。2時間毎の巡視は入眠を損なわぬようにその方に合わせている。夜間排尿が多い方にはタイミングを図ってトイレ誘導、おむつ交換をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の効果については職員は実感もっているため、敏感になっている。服薬時、必ず本人確認を行っている。疑問が生じた場合、看護婦に確認することも習慣化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去歴や聞き取りから趣味等の提供を工夫している。ぬりえ、間違い探し、計算、読書、散歩、歌などがある。気候が良い時期には、デッキでコーヒーを飲んだり、歌、ガーデニングなどを楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度程車で出かけている。馴染みの喫茶店や食堂があり、大変楽しみにされている。季節の花見、お祭りなど皆さんの希望に添う場所を選んでいる。ご家族が同行されることもあり、馴染みとなられた利用者と共に郊外で過ごすことがある。	ホームとして外に出かけることを大切にしている。花見など季節に合わせた外出の他、喫茶店のモーニングや外食を目的とすることもあり、喜ばれている。冠婚葬祭への同行など、本人、家族の意向に沿った個別の対応ができるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのショッピングセンターで買い物を支援している。ご自分で選ばれ、お金を払われている。夏祭りには駄菓子屋をおこない、ひ孫にと嬉しそうに選ばれる時の顔は生き生きとされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや、年賀状作りを行事にしている。その他に手紙を書いてもらうなどしており、大変喜ばれている。手紙をいただくこともあり、居室に提示している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柔らかな照明を使用しており、明る過ぎず落ち着いた空間になっている。展示物は皆さんと作った季節の作品や、思い出の写真にしている。また利用者家族から見事な手芸品をいただき、温かな家庭的な雰囲気を醸しだしている。	ホームでの寛いだ様子や行事の時の写真、そして家族の写真も壁にたくさん貼られており、いつも一緒にいる安心感を創り出している。テラスも設置されており、外気浴をしたり皆でお茶を飲みながら寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の工夫をしている。気の合う方と同じテーブルにしている。テーブルは一つにまとめず、島の形をとっている。ソファがあり、ゆったりと座り、談笑される姿がみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や本人の作品を掲示している。写真は施設にみえた時に撮ったり、家族が持参して下さる。自宅で使用していた家具を置いたり、居室でゆっくりテレビを見ている利用者もいる。	本人と家族の思いを大切に、懐かしい写真や小物など自由に持ち込んでもらっている。家にいた時の生活スタイルに合わせ、畳を持ち込んで過ごしている利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所には名前が張られており、口腔ケアなど自立されている。トイレがわかるように大きな字が貼ってある。ゴミ箱を数か所においており、ご自身で処理されている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100176		
法人名	野原電研株式会社		
事業所名	グループホーム・ハッピー桜		
所在地	大垣市外洲2丁目81番地		
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2192100176-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成27年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①ハード面においては、鉄筋建築による頑丈な建物、防火設備の完備、入浴設備の充実、明るく広いデッキの設置で、安心、安全な介護を提供しています。</p> <p>②医療面においては、24時間オンコールによる医療との連携をとっています。看取りへの取り組みを行っています。ご家族による病院受診が困難な場合、付添等の支援をおこなっています。</p> <p>③ご利用者支援においては、お1人お1人の気持ちに添い、お話をじっくり聞かせて頂いています。定期的に外出や外食を行い、季節を感じ取っていただいたり、地域の方達と触れ合っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの入り口に理念が掲げられている。毎朝申し送り時には全員で唱和をし、理念の確認を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	大垣市内の中学や高校の体験学習を積極的に受け入れ、利用者との交流の場を設けている。近隣の保育園と定期的に交流を継続させている。氏神参拝時や散策に出掛けた際には気さくに挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修の要請があれば現地向いている。ボランティア・推進会議等を通して認知症の理解や支援方法を勧めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では意見交換会の場を設け、自由に述べて頂いている。様々な意見を取り入れ、また、理解をして頂き、介護現場で生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議出席の市職員や大垣社協の職員は些細な質問にも丁寧に答えて下さるので助かっている。推進会議終了後や、ケアマネ交流会の場で報告や質問を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止策が身体拘束に値しないか、常に真剣に話し合っている。定期的な研修を行うことで身体拘束行為を正しく理解をしようとしても必要な場合は身体拘束検討委員会を設置し、慎重に検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や、外部研修により、専門的な知識を持ち、虐待を見逃さない力を養っている。身体的虐待は言うまでもないが、言葉による虐待やネグレクト等ないか、常に利用者の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでも、キーパーソンの高齢化で、制度の理解の必要性を痛感している。昨年度は外部研修、2か所に参加をしている。今後も家族の不安に応えるため、勉強を継続させる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者の不安・抱かれている潜在的な疑問など会話の中から読み取り、正直に丁寧に説明している。いつでも疑問に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やその家族から直接聞いた言葉を職員が投函をしている。投函箱は入口に設置しており、外部の意見も取り入れている。お客様声情報として対応等綴ったファイルが入口に掲げてあり誰でも閲覧できる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファ時には上席者が出席をし、職員の声を聞いている。また、前出のお客様声情報は、職員の声も反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士の勉強会を実施している。希望休の設置、業務にさし障らない勤務変更、残業を作らない業務の改善、子育て支援の為にシフトの工夫等を行っている。資格取得の際には報奨金が出る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修費の全額、または一部負担金制度がある。研修を受けた職員は、内部研修の講師となる。日々の実務の中では、介護技術だけでなく、接遇などの個別指導もおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や介護施設協議会、居宅支援事業などの会員となっており様々な研修や交流会の案内を送付してもらっている。他事業所とは情報交換を行っており良い刺激を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	落ち着いた静かな環境を作り、家族などから得た情報を基にゆっくりと丁寧な対応をさせて頂く。しっかりと目を合わせて、顔きながら話を聞かせて頂き、ホームでの生活に慣れて頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一方的に話しかけないようゆっくりと目を合わせて話を伺う。否定と指導的な発言、態度は絶対にしない。安心をして話して頂ける雰囲気を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に家族状況や好き嫌い表を渡している。本人や家族の話の中から表に出ない本音や要望を見つけていく。アセスメントシートを活用し、満足がいく支援を見つけ出している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も家族の一員として優しい気持ちで接し、軽作業を共に行っている。行事も利用者と共に企画をし、楽しんでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日面会に来られ、散歩や更衣介助をして下さる家族や、面会時には、口腔ケアや髭剃りなど身体介護を行って下さる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙を書いて頂いたり、近所の方の面会時には関係が途切れないよう面会者をお願いをしている。親類の慶弔事等の支援依頼があった時には協力をさせて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できる範囲内でお手伝いを依頼し、会話を交わしながら皆さんと作業して頂いている。席を工夫し、安心して過ごして頂けるよう配慮をしている。顔なじみの利用者があることで安心をされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の関係者や、家族の相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の身体状況を把握し、本人の訴えに添うようにしている。機能訓練が必要だと診断された場合は声掛けを工夫しながら日常生活動作のなかに取り入れ苦痛のないように行っている。個別支援を基本としている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの聞き取りをシートに記入していきながら、ニーズにこたえるようにしている。必要であれば材料を用意し以前の趣味に取り組んで頂くことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩き回られる方の休憩所としてソファを数か所に設置したり、相乗効果が望める席の工夫でお手伝いをして貰うなどの工夫をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題点が出た時には家族に現状を伝え、意向を伺う。利用者の問題点、その背景にあるものそれらのシートを活用し、本人・家族の意向に添ったケアを検討している。主治医に問題点を伝え指示を受けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を個別に記入している。周辺症状等が出てきた場合は24時間シートを活用し、職員全員で取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単調な支援ではなく、それぞれのニーズに合わせ毎日申し送り時に確認を行いながら柔軟に対応をしている。転倒予防のために椅子を替えたり、家族受診が困難であれば病院までの送迎や付添を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのショッピングセンターに出掛けたり、馴染みの病院で安心して頂く。高齢者が入りやすい喫茶店への外出も楽しみにされている。近くの資源情報の把握に努めて楽しみのある生活支援を意識している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医はあるが強要しておらず主治医は家族・本人の希望を優先している。受診時には情報書を渡し主治医との連携を取っている。送迎が困難な場合お手伝いをし、安全に受診して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行い、体調管理をしている。体調不良等が見られた場合医療連携ノートに記録をしている。看護師は常にノートチェックを行っており、受診指示や処置指導をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった場合、常に家族と連絡を取っている。病院には本人の詳しい情報提供を行い、できる限りの協力をしている。病院側にカンファの要請をし、早期退院の有無、退院後の適切な療養の指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回面接時は必ず、定期的に終末の在り方の意向を尋ねている。実際本年度は看取りを行い、家族・医療・事業所の連携が不可欠であることを痛感している。今後も勉強を重ね、本人の意思を尊重しチームとしてできることを検討していきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として対応順序のマニュアルを作成している。初期の対応は看護師・医師・消防士より指導を受けている。AEDが設置しており、実際に作動させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4年前に近隣の福祉施設と災害協定が締結された。あらゆる事態を想定し、年2回消防署の指導を受けながら訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、全ての利用者を〇〇さんと呼んでいる。職員の中で不適切な発言があった場合その場で注意をしている。利用者が不快にならないよう声掛にはかなり配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	笑顔で、利用者が自分の思いを伝えることができるよう頷きや同調をしながら本人の気持ちを察し、自己決定が出来るようアプローチをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク参加の無理強いはいらない。食事はその人に合わせている。自室で休みたいとの希望があれば、すぐフロアに来られることがわかっていてもお連れしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装が同じにならないよう利用者と話しながら洋服選びをしたり、整髪の手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳やお盆拭き等お手伝いをお願いしている。歯ぐきのみの方も刻んではいるが普通食に近づけるよう工夫をしている。年に4回昼食を利用者と共に作ったり、おやつレクでは男性利用者も生き生きと参加をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄・体重の状況から栄養状態を把握している。食事以外、起床時・10時・3時・入浴後にはお茶や好みの飲料を出している。希望があれば好みの飲料を出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後義歯洗浄介助、ブラッシング介助を行っている。自立の利用者には洗面所までお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考にしながらトイレ誘導を行っている。おむつ使用料を減らすためリハパンから布パンツとパットにしたり、夜間帯、おむつを外される方には根気よく処理の対応をし、ポータブルを置くなど様々な工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給や牛乳などの摂取、車椅子移動の方でも歩行の訓練など少しでも運動を試み自然排便の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の利用者に対し、無理強いすることなく足湯や、清拭を根気よく続け今では問題なく入浴を楽しまれている。一般浴が困難な方は特浴で安心安全に入浴されている。入浴日は決まっているが臨機応変に対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居室で休みたいと希望される方には休んで頂いている。夜間帯は2時間毎に巡視を行っているが、入眠を損なわないよう配慮している。夜間尿量が多い方にはタイミングを見てトイレ誘導、おむつ交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果は実感するところであり、誤薬の怖さも心得ている。医師の指示を守り、看護師は常にチェックをしている。誤薬があった場合、すぐ医師に報告をし、指示を生けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ポーとされることがないよう雑誌やぬりえを提供したり演歌番組のビデオを見て頂く。デッキに出てコーヒーを飲んだり歌って頂いたり、生活にメリハリをつける工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普段の会話の中から利用者のニーズを聞き出し、外出時の参考にしている。季節の花や行事に出たり、ご自宅へお連れする方もいる。家族と外出される時は、必要な備品(おむつなど)を渡している。全介助の方でもできる限り外出をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本年度の夏祭りの際、駄菓子屋を企画し自身のお金を持参し、好きな物を購入して頂いた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いを書いて頂いている。利用者のほとんどの家族が頻繁に面会に来て下さるのでありがたい。遠くの孫さんからの手紙など居室に掲示している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柔らかな照明を使用しており、明るすぎず落ち着いた空間になっている。壁の掲示物は馴染みの写真であったり、手作り作品で温かみがある。ところどころにソファを置き、歩く癖のある方の休憩所になっている。トイレは車椅子が十分入る広さとなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き気兼ねなく一人で過ごせる場所を作っている。八重ユニット利用者は席の拘りを持つ方が少ない為、楽しく過ごせる場所を表情等を観ながら変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真や本人の作品を掲示している。写真は施設にみえた時に撮ったり、家族が持参して下さる。自宅で使用していた家具を置いたり、居室でゆっくりテレビを見ている利用者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所には名前が張られており、口腔ケアなど自立されている。トイレがわかるように大きな字が貼ってある。ごみ箱を数か所においており、ご自身で処理されている。		